## 共有

ける。嶋田孝司社長は「地方目 になってしまえば「電子化の意 張る。・紙ベースの時よりも不便 票にも柔軟に対応する」と胸を 治体も含め、どういう形式の帳 報共有のシステムづくりを心掛 なる工事関係書類に合わせた情 連省地方整備局ごと<br />
で微妙に<br />
異 エー・シー・エスは、国土交 味がない」との考えからだ。提 供する『工事情報共有システム』 和感なく電子化に移行できる環 ない表示によって、利用者が違 用し、見た目には従来と変わら ったフォーム型の入力画面を採 は実際に使われている帳票に沿 境を提供している。

利用者は安心して使える」と強 きるほか、電子決済には印影の の入力画面に直接入力すること 発の手間はかかるが、利用者が 晃マネージャーは「システム開 入力欄を設けるなど細部にまで で、戸惑わずに修正が容易にで 従来の仕様に近づけることで、 使いやすいものを提供したい。 こだわる。営業グループの吉田 システムの利用者は帳票様式

> むことができるため、情報伝達 り取りに使われるケースが多く も工事関係者なら誰でも書き込 設けている。決裁権限がなくて 映した機能の一つ」と明かす。 書類作成の流れが一目で分か 際には協議書類の修正などのや の場としても機能している。実 ネージャーは<br />
> 「利用者の声を反 る。開発グループの髙橋哲郎マ

ジで保管することでセキュリテ 類には回答希望日を入力するこ ィーやタイムラグなどを解消し 凶面などをオンラインストレー 間を短縮できるコピー機能や、 に共通書類管理機能、急ぎの書

繁に提出が必要な資料の作成時 同社は、施工体制台帳など頻

> てきた。 応えるようにメニューを拡充し 能など、利用者の声にいち早く とで日付が点滅するお知らせ機

03年。神戸市建設局で試行さ れたのが最初だ。藤野芳徳取締 ービス提供を開始したのは20 そもそも同社が情報共有のサ

かったこともあり、紙のほうが 役は「当時の建設業界にはウェ 便利という意見が多く、現場の ブシステム自体が浸透していな

声に一つひとつ耳を傾けてき 関連した文書のやり取りは20 た」と振り返る。 1現場当たりで打ち合わせに

発注者間の決 ぶ。例えば受 まりごととし 〇件近くに及

望日を明記 しての回答希 には施工者と レスポンス」 る「ワンデー て浸透してい

HOA (B)

AU C

帳票の入力画面。電子決済には印影の 入力欄を設けている る機能を付け づくと知らせ し、期限が近

模で推移している。 び始め、年間500件程度の規 サービスの利用件数が顕著に伸 な部分の独自性を見てほしい (吉田マネージ ャー)。近年は

できる態勢が整った。 者からの要望も絶えない。基盤り、使いやすさを求める受発注 ることに合わせ、 要件(Rev3 言語の変更によってセキュリテ 件の追加は今後も計画されてお の基盤言語を刷 ィー面の強化とともに、ユーザ ーの声をすぐにフィードバック 12年4月には、 新した。機能要 ・ 0) に対応す システム開発 国交省の機能

た」自負がある。より良いシス ってシステム開発を進めてき テムを提供し続けていく中で、 長には「建設業とともに向き合 が必要かを考えてきた。嶋田社 常に同社は利用者のために何

【建設ICT】

1. 日 経 4. 読 売 7. 産 経 10.中部経済 (3)建設工業

2. 朝 日 5. 岐 阜 8. 静 岡 11.建 通 14.信濃毎日

3. 毎 日 6. 中 日 9. 伊 勢 12.日刊工業 15.日本海事

平成25年 4 月25日((朝 夕) Р3

## 現場の声 つひとつ反映

次のステージとして「クラウド

への移行」を考

えている。

(畠山涼子)

帳票の下段にはコメント欄を